

いしかわ版里山づくりISO 認証団体(H26.12.24現在)

認証番号	組織名称	所在市町	認証番号	組織名称	所在市町
113	農事組合法人 能登ふれあいガーデン	能登町	164	宮竹用水土地改良区	能美市
114	金剛建設 株式会社	金沢市	165	能登町立小木中学校	能登町
116	株式会社 環境公害研究センター	金沢市	166	KAKUMA NO HIROBA	金沢市
117	有限会社 北海道ワイン能登ヴィンヤード	穴水町	167	奥能登原木しいたけ活性化協議会	穴水町
118	粟津村おこし推進協議会	珠洲市	168	NTT西日本 金沢支店	金沢市
119	富士通 株式会社 北陸支社	金沢市	169	株式会社サークルKサンクス	愛知県稲沢市
120	湯涌かぶら利用拡大協議会	金沢市	170	七尾市立有機小学校	七尾市
121	森と生きる会	金沢市	171	七尾市立石崎小学校	七尾市
122	石川県立能登高等学校	能登町	172	七尾市立田鶴浜小学校	七尾市
123	株式会社 奥能登塩田村	珠洲市	173	七尾市立和倉小学校	七尾市
124	株式会社 Okurusk	穴水町	174	七尾市立中島小学校	七尾市
125	鈍打ふるさとづくり協議会	七尾市	175	七尾市立北星小学校	七尾市
126	石川県立鶴来高等学校	白山市	176	七尾市立徳田小学校	七尾市
127	羽咋市立西北台小学校	羽咋市	177	七尾市立天神山小学校	七尾市
128	森の青空アート実行委員会	金沢市	178	七尾市立山王小学校	七尾市
129	石川県立金沢桜丘高等学校	金沢市	179	七尾市立東湊小学校	七尾市
130	奥能登畑田ネットワーク協議会	珠洲市	180	七尾市立小丸山小学校	七尾市
131	株式会社 コワ金沢営業所	金沢市	181	七尾市立高階小学校	七尾市
132	日用苔の里整備推進協議会	小松市	182	七尾市立能登島小学校	七尾市
133	はるきの里保全の会	中能登町	183	石川・松任健康の里	白山市
134	株式会社 門前クリーンパーク	輪島市	184	特定非営利活動法人ワンネススクール	白山市
135	手取川七ヶ用水土地改良区	白山市	185	株式会社G-VOICE	金沢市
136	門前町林業研究グループ	輪島市	186	株式会社丸西組	小松市
137	カナン株式会社	小松市	187	石川県立輪島高等学校(定時制)	輪島市
138	推進万行	七尾市	188	特定非営利活動法人みらいプロジェクト	金沢市
139	穴水町林業研究会	穴水町	189	小松市立木場小学校	小松市
140	南建設株式会社	志賀町	190	米沢電気グループ経営者会議	金沢市
141	株式会社北都組	金沢市	191	能登畑田保全活動協議会	穴水町
142	一般財団法人mundef	東京都渋谷区	192	白山しらみね薪の会	白山市
143	岩井戸地区振興協議会	能登町	193	木場潟再生プロジェクト	小松市
144	北陸学院大学フィールドスタディ地域福祉プログラム	金沢市	194	株式会社吉岡機販	金沢市
145	ユニー株式会社 北陸営業部	金沢市	195	能登町立松波中学校	能登町
146	郵便局株式会社能登地区連絡会	志賀町	196	白山市立鳥越小学校	白山市
147	積水樹脂株式会社	大阪府大阪市	197	高松紋平柿生産組合	かほく市
148	渡津ホテル保存会	白山市	198	石川かほく農業協同組合	津幡町
149	株式会社ハウイ村田製作所	羽咋市	199	特定非営利活動法人角間里山みらい	金沢市
150	浅地高周波株式会社	金沢市	200	能登ふく事業協同組合	七尾市
151	株式会社 石川コンピュータ・センター	金沢市	201	能登島ダイビングリゾート	七尾市
152	石川県立穴水高等学校	穴水町	202	竹腰永井建設株式会社	白山市
153	株式会社 金沢ジャーマンペカリー	金沢市	203	大和ハウス工業株式会社金沢支店	金沢市
154	田岸里山海倶楽部	七尾市	204	かほく市立大海小学校	かほく市
155	株式会社 寺田鉄工建設	小松市	205	株式会社富士通ITプロダクツ	かほく市
156	寺井建設株式会社	志賀町	206	石川県立七尾特別支援学校輪島分校	輪島市
157	山崎製パン株式会社 名古屋工場	愛知県名古屋市	207	株式会社PFU	かほく市
158	柳田建設株式会社	能登町	208	鶴来谷林業研究会	白山市
159	西谷内集落	七尾市	209	合同会社輝け白山	白山市
160	株式会社 工藤工務店	穴水町	210	若緑を守り育む会	かほく市
161	まちなか里山公園づくりの会	七尾市	211	株式会社エオネットス	金沢市
162	株式会社 山一	穴水町	212	大福寺集落	志賀町
163	津幡町職員互助会あけぼの会	津幡町	213	能登町立能都中学校	能登町

石川県環境部温暖化・里山対策室

石川県金沢市鞍月1丁目1番地 TEL:076-225-1469 FAX:076-225-1479
 ホームページ: <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/iso/ontaiiso.html>
 Eメール: sato-iso@pref.ishikawa.lg.jp



平成27年3月再発行



始まっています
新しい里山づくり

石川の
里山里海を支える
パートナー

～いしかわ版里山づくりISO～ Vol.1

さまざまな生きものが網の目のようにつながりを持ちながら生きていることを「生物多様性」といいます。衣・食・住など私たちの暮らしは、これら生物多様性の恵みによって支えられています。私たちの豊かな暮らしをこれからも持続させていくためには、生物多様性の保全はとて重要でです。

2011年3月、石川県は、生物多様性保全のための取り組みのよりどころとなる「石川県生物多様性戦略ビジョン」を策定しました。この戦略ビジョンは本県の生物多様性を特徴づける「里山里海」の利用保全を中心にした内容となっており、「里山里海における新たな価値の創造」や「多様な主体が参画した新しい里山づくり」などの重点戦略を掲げています。

人の暮らしとの関わりの中で育まれた里山里海の生物多様性保全においては、その持続的な利用を通して里山里海を環境を維持していくことが必要です。そのためには、里山地域に暮らす住民だけでなく、外部からの参画も得て、みんなで里山づくりを行っていくことが必要になります。

そこで県では、企業やNPO、学校など、より多くの方々に里山づくり活動に参加していただくため、「いしかわ版里山づくりISO」制度を創設しました。

これは、農地や森林の整備、生きものの保全活動、海岸清掃など、里山里海の利用保全のための取り組みをガイドラインとして提示し、これを参考に行う企業や団体などの活動を県が認証するものです。県では、各認証団体の里山づくり活動に関する情報発信や、活動に必要な道具の貸し出し、講師の派遣などの支援を行っています。

現在、206の企業・団体・学校を認証しており、今回、認証団体のみなさまの活動の一部を紹介する冊子を作成しました。この冊子が、里山づくり活動のさらなる発展や、新しく里山里海へ関わるきっかけとなり、石川の里山づくり活動の輪が、ますます広がっていくことを願います。

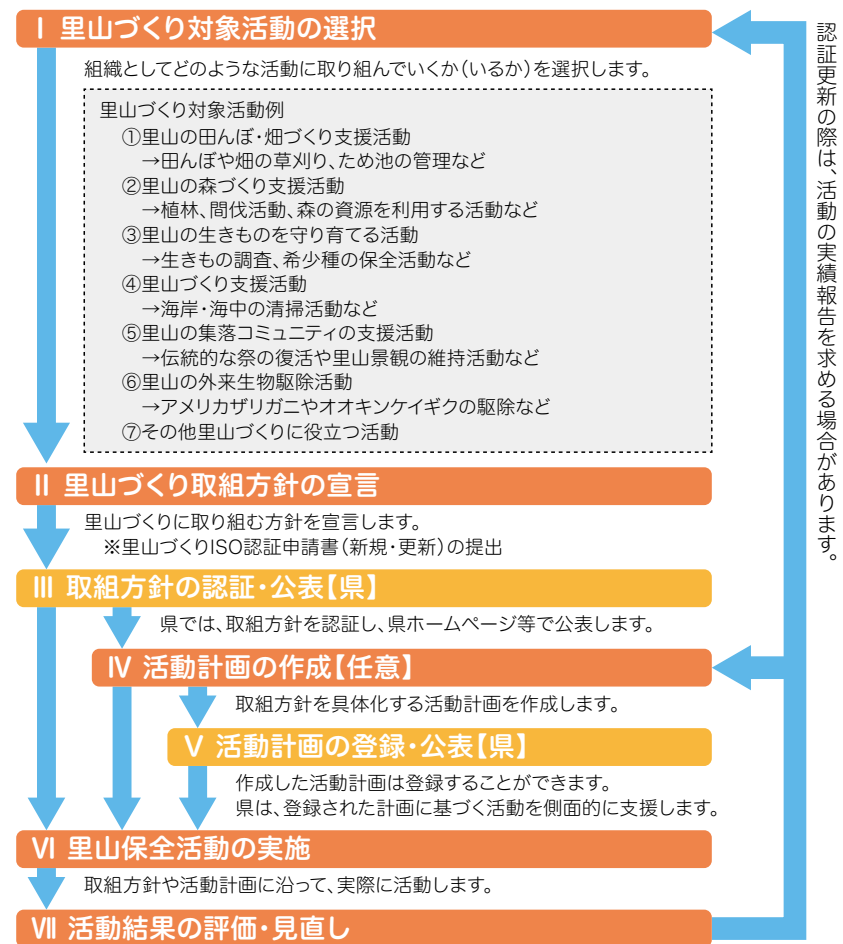
2015年3月
石川県環境部温暖化・里山対策室



写真：中乃波木

いしかわ版里山づくりISO

いしかわ版里山づくりISOは、里山里海の利用保全に対する組織の取組方針を認証する制度です。すでに活動を行っている方はもちろん、これから活動を始めようとしている方も認証を受けることができます。



特 徴

企業、NPO、地域団体など、幅広い組織の方々が対象です。
認証手続きが簡素であり、また、認証のための費用は不要です。

メリット

地域の生物多様性の保全や地域振興、豊かな里山里海の継承につながります。
社員や会員の皆様方の社会貢献活動の受け皿となります。
顧客や取引先などからの社会的な信頼性が向上します。



撮影：足袋拔 豪

市民・企業が関わるこれからの里山里海 文・香坂 玲

なぜ多様な参加者が求められるのか

なぜ行政だけでなく、市民や企業が里山里海の活動に関わるべきなのでしょう。これまで、多くの政策が行政や専門家がトップダウンで実施されてきました。しかし、住民や地域の企業に「自分たちの場所でのプロジェクトだ」と感じてもらえなければ、なかなか続かなかつたり、計画外の出来事があった時に対応できなかったりするという反省から、住民の声を取り入れていくプロセスへと変化してきました。

また、地域に根づいて活動している市民団体やNPOだからこそできる、地元の生態系に関わる知識やケアや活動があります。「能登の里山里海」が国内初の認定となった世界農業遺産(GIAHS)も行政が先導したハコモノではなく、能登半島に根づいて、まさにその場で農業や漁業を続けている方々の生活そのものが評価された結果です。

企業の場合では、社会のなかで事業活動を展開する以上、地域の環境や住民にオープンで透明性があることが必要不可欠となりつつあります。筆者は経団連自然保護委員会の企業向けのアンケートや、林野庁補助事業の「森づくりコミッション中央研修会」に参画し、様々な企業の

プロジェクトをみてきました。新しいトレンドとしては、木を植えるだけでなく、植樹をした材や間伐材を文房具や家具、家の材とするなど、製品としての出口を準備しているケースも出始めています。

ただ、地域が直面している課題と企業が行う貢献活動がうまく合致していない状況も見られ、行政、市民、企業とも、まだまだ改善の余地はありそうです。

関心を持つという参画

最近では社会保障との関係性で、「税金」(あるいは増税)という言葉を聞かない日はないぐらいですが、私たち市民は、税金の仕組みに加えてその使われ方にも関心を持つことも重要です。

例えば、現在の多くの都道府県で森林保全のための税金が導入されていますが、石川県でも「いしかわ森林環境税」として、県民一人当たり年間500円を負担してもらい、森林の公益的機能の維持のために使われています。また、民間と行政が連携した独自の試みも進行中で、筆者も専門委員として参画していますが、地元金融機関と県が連携して基金総額53億円の「いしかわ里山創成ファンド」を設置し、地域資源を活かし

た萌芽的な取り組みに支援をして、里山の再生と地域活性化につなげています。

このような税金やファンドが効果的に使われるためには、私たちも里山里海に関心を持つことが必要です。市民や企業人が関心を高く持つことも、里山里海保全への参加や貢献における重要なひとつの方法です。

国際的展開と里山里海づくり

さて、国際的な大局からは、2011年は国連が定めた「国際森林年」であり「国連生物多様性の10年」の最初の年でした。2011年がホップならば、そろそろステップに差し掛かる年に当たります。世界農業遺産についても、認定を祝福するご祝儀の段階から、持続可能な観光や教育活動を通じて根づかせる段階へとレベルアップさせていく時期になります。

国連生物多様性の10年のフィナーレ、2020年に向け、国際的にも生物多様性の利用と保全に関する様々な動きがあり、各ポイントで生物多様性の取り組みの進捗が問われることとなります。2014年は持続可能な開発のための教育(ESD)の10年の最終年でした。石川でも、多くの学校でこうした活動が実践されましたが、ま

さに未来の里山里海を担う世代に今後とも教育活動が必要であることは言うまでもありません。

生物多様性の問題は政府だけで解決できることはありません。石川県が誇る里山里海に代表されるように、その利用と保全は我々の暮らしに密着しています。今後は、企業や市民も、それぞれの足元から生物多様性と里山里海、暮らしとの関わりを考え、成果までを視野に入れて活動していくことが重要となります。今後、地域に密着して活動する方々のますますのご活躍を期待しています。



香坂 玲
こうさか りょう

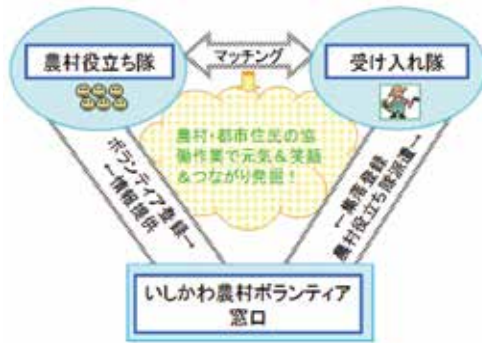
東京大学農学部卒業。国連の生物多様性条約事務局(カナダ・モントリオール)で勤務後、名古屋市立大学を経て、2012年4月より地域創造学の准教授として金沢大学に赴任。COP10支援実行委員会アドバイザー、国連大学高等研究所の客員研究員として里山の評価などにも参画。近著に「森林カメラ」(清水弘文堂)、「生物多様性と私たち」(岩波ジュニア新書)などがある。

里山づくりを始めたいと思ったら…

■いしかわ農村ボランティア

石川県では、農村でボランティアをしていただける都市住民、企業や学生のみなさまを「農村役立ち隊」として登録させていただき、ボランティアの受入を希望する集落「受け入れ隊」の活動予定を農村役立ち隊員にお知らせし、参加を呼びかけています。

農村役立ち隊員のみなさまには、ご都合に合わせて活動に参加していただき、荒廃した棚田の再生、集落内の景観形成など、受け入れ隊との協働活動を通じて、元気な里山里海づくりを推進しています。



■お問い合わせ

いしかわ農村ボランティア窓口(石川県農林水産部里山振興室)
TEL:076-225-1631

■企業の森づくり

県では、「いしかわ森林環境税」を活用し、県がコーディネーターとなって、森林環境保全に積極的な企業や団体と地域との連携による森づくりを進めていく「企業の森づくり推進事業」を展開しており、企業などに対する説明会や現地見学会を開催するとともに、活動フィールドの仲介や技術指導等を実施しています。



■お問い合わせ

石川県農林水産部森林管理課
TEL:076-225-1642

この他、里山づくりに関する問合せは、石川県環境部温暖化・里山対策室までご連絡ください。

いしかわ里山ポイント制度

～里山保全活動に参加して地産地消を推進～



より多くの方々に里山の保全活動に参加していただくため、平成24年より「いしかわ里山ポイント制度」を導入しました。

この制度は、平成23年度に創設した「いしかわ里山創成ファンド」を活用した取り組みで、いしかわ版里山づくりISO認証団体等が主催する里山での田んぼや畑の草刈りや、植林などの森づくり活動といった里山の保全活動に参加すると、参加者に里山ポイントが交付されます。参加者はポイントを貯めることで、事業に協賛する農産物直売所や地産地消を推進しているお店で利用できる里山チケットに交換することができます。

この制度の導入により、個人レベルの自主的な里山の保全活動への参加を促進し、元気な里山づくりに繋げていきたいと考えています。

1 Step

里山利用保全活動に参加!

- 里山ポイント交付対象活動の情報はこちら
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/point/seido.html>
- いしかわ農村ボランティア「農村役立ち隊」への登録
農村でのボランティアを行う「農村役立ち隊」に登録すると、里山ポイントがもらえる農村ボランティア活動やその他の活動情報を配信します。



2 Step

実施団体から里山ポイントシールと応募ハガキをGET!

3 Step

応募ハガキに里山ポイントシールを添付して応募!

- 3ポイントで → 1,000円相当分の里山チケット
- 5ポイントで → 2,000円相当分の里山チケット
- 10ポイントで → 5,000円相当分の里山チケット



4 Step

里山チケットGET!

応募いただいた方に、もれなく里山チケットが送付されます!

5 Step

里山チケットを使って、石川県産の農産物や能登丼をGET!

里山チケットは、事業に協賛する農産物等直売所や地産地消を推進している飲食店で、購入・飲食代金の支払いに使用できます。



○里山ポイント対象活動や里山チケットが使えるお店についてはこちら
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/point/seido.html>

○貴団体が主催する里山保全活動を里山ポイントの対象としたい場合はこちら
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/point/bosyu.html>

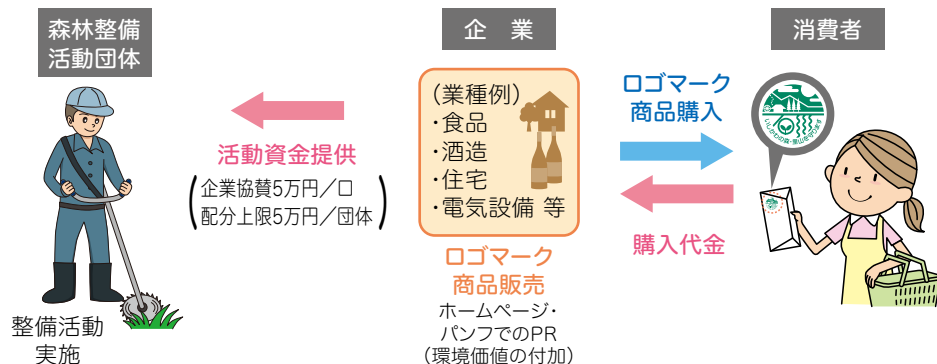
石川の森整備活動CO₂吸収量認証制度について

県では、企業や団体などが県内で社会貢献活動として実施した森林整備活動による二酸化炭素の吸収量を数値化し、証書により認証する制度を実施しています。

証書は、環境貢献、社会貢献活動の証として広く広報活動に用いることができます。

いしかわ版CO₂削減活動支援制度について

県では、CO₂吸収源としての森林を保全する活動を社会全体で支えるしくみとして、「いしかわ版CO₂削減活動支援制度」を創設しました。



本制度は、NPOやボランティア団体が行う森林整備活動に協賛いただける企業(協賛金額・1口5万円)を募集し、協賛金は、これらの団体の活動への支援金(1団体上限5万円)にあてられます。

協賛企業は、自社商品・広告等にロゴマークを1年間使用することができます。消費者(県民)は、ロゴマークを使用している企業の商品を購入することで、団体の森林整備活動を支援することができます。



いしかわ版CO₂削減活動支援事業ロゴマーク

のと共栄信用金庫

No.1

活動テーマ 石動山での森づくり活動



当金庫は、CSR(企業の社会的責任)を重視する金庫経営を目指し、「環境問題」と「子育て支援」を地域における重要課題として捉え、「本物の森が、人間の命を守ります。」をキャッチフレーズに石動山の森づくりに取り組んでいます。

豊かな自然に恵まれた能登をはじめ「いしかわ」のかけがえのない環境を保全し、次代を担う子どもたちに自然豊かなふるさとを引き継いでいくことは、企業市民としての責務であるとの考えから、事業活動に伴う環境負荷の低減をはじめ、金融機能を通じて企業や個人の環境保全活動の支援等、地域と一体となった環境配慮型経営に取り組み、地域経済の発展、豊かな地域社会づくりに貢献していきたいと考えています。

森づくり活動

平成20年5月1日に石川県と「森づくり」協定を締結し、中能登町にある石動山の県有林を借り受け、毎年春と秋の2回人工林の整備(間伐、枝打ち、下刈り)、植林、林道整備や自然体験学習などを行っています。毎回、職員をはじめ家族、地元住民など約300人がボランティアとして参加し、活動しています。

本活動は、石川の森整備活動CO₂吸収量認証を受けています。

森づくりファンド“やまもり”

地域と一体となって森の再生を図るため、金融機能を通じて「山を守る」「山を盛りだくさんにする」という2つの意味を含めて作った金融商品です。森づくりに賛同してお預けいただいた預金者から満期時に受取る利息の一部を寄付していただき、預金者からの寄付金と当金庫からの拠出金をもって石動山での森づくり活動の資金としています。商品を発売して7年目になりますが、毎年追加販売するなど、森づくりに対する予想以上の反響が続いています。



のと共栄信用金庫

〒926-8601
石川県七尾市松木町35番地

T E L : 0767-52-3450(代)
F A X : 0767-52-1305
Eメール : sousesen@notoshin.co.jp
ホームページ : <http://www.notoshin.co.jp>

加賀白山麓観光ネットワーク協同組合 No.2

活動テーマ・・・あなたもブナの木を育てよう・・・



白山市の水は豊かで、霊峰白山の山頂から山麓を経て手取川を流れ、日本海にそそぎ、生活や産業・工業に豊かさを与えています。この水は、能美市や小松市、加賀市に加え、七尾市能登島でも利用されています。

この恵まれた大自然・白山国立公園と伏流水も含む豊かな水に感謝し、次世代に残していかなければなりません。私達は、ボランティア活動として、白山市中宮のブナ林で14年余り前から多くのブナの木を育ててきました。ブナの森は山のダムとも言われ、水をきれいに浄化し良い水を保つと言われています。川・平野・海をきれいな

環境にするために山の環境からきれいしようと、活動を続けています。

1本のブナの木がやがてブナの森になるよう、1年に1回(5月)、1日での活動を行っています。石川県自然保護センターや樹木医の方々からの指導を受けながら、下草刈り、つる切り、枝打ち、間伐、調査などの里山の保全活動を通して、地域の人たちや一般参加の親子たちと楽しく交流を続けています。

私たちの活動は、石川の森整備活動CO₂吸収量認証制度により、16tのCO₂の削減に貢献したと認証されています。

ブナの木はすくすくと育ており、春はブナの芽ぶきと共に、群生するカタクリとキクザキイチゲの花が満開になり、観賞しながら森を歩くととても癒されます。夏は涼しくさわやかな風がブナ林を通り抜けていき、秋はブナの紅葉がとてもきれいです。

きれいなブナの林が育っていくこと、それが私たちの願いです。

・・・あなたもブナの木を育てよう・・・

皆さんもブナの木を育ててみませんか。ご参加をお待ちしております。



加賀白山麓観光ネットワーク協同組合 代表 橋本孝一

〒923-0151 小松市正蓮寺町イ384
TEL・FAX : 0761-47-1769

携帯電話 : 080-6353-2702(問合せ先)
Eメール : khasmoto@cocoa.ocn.ne.jp

能美の里山ファン倶楽部 No.3

活動テーマ 活力のある地域づくりを目指して



能美市は石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、海・山・川の豊かな自然といにしえからの伝統・文化、活力のある産業と豊かな人を育むふるさとです。

能美の里山ファン倶楽部では、市民、行政、各種団体、民間の事業者など里山を愛する多くの人々が協働し、能美のふるさとを「守る・深める・活かす」の3つのキーワードで、人を育み、里山を守り育て、地域力を高めながら、活力のある地域づくりを目指しています。

主な取り組み

里山林の枯木や倒木の処理、散策路の整備や間伐を行ない、そこから出る木材を利用した薪、炭、きのこなどを生産する「森づくり活動」を柱とし、耕作放棄地の有効利用による生産物の販売やこれらの加工等による商品化に取り組む「地産地消活動」、散策会や歴史・文化体験などの「体験交流活動」を通してのまちむら交流の促進などを行なっています。

また、炭焼き職人の養成や里山ガイドの育成を図る「人材育成活動」、地域の子どもたちに、多くの自然とふれ合い里山の魅力を体験してもらう「里山自然学校」を開催しています。

目指すもの

このように、能美市の里山の自然環境を良好な状態に保っていくために、さまざまな取り組みを通じた里山の普及活動を継続し、これをブラッシュアップしていくことにより、地域資源である「里山の恵み」や、活動により得られる収入を地域へ還元していくことを目指しています。

里山で地域経済が循環する里山づくりの「産業化」が、能美の里山ファン倶楽部にとっての最大の目標です。



能美の里山ファン倶楽部

〒923-1224 能美市和気町イ21-1
(こくぞう里山公園交流館内)

TEL・FAX : 0761-51-2308
Eメール : info@nominosatoyama.com
ホームページ : http://nominosatoyama.com

公益社団法人 金沢こころの電話 No.5

活動テーマ 絆の森に集うことの楽しみ



平成22年、金沢こころの電話創立35周年記念事業として、社会や地域に貢献するため、石川県企業の森づくり事業に呼応して森づくり活動を始めました。

石川県森林公園(運動公園に面した0.2ha)に、景観も配慮してヤマモミジやイロハモミジを植栽し、私たちはここを「絆の森」と命名しました。

森林公園の5か所の候補地からこの場所を選んだものの、荒廃した林となっており、地拵え・草刈りの作業は私たちだけでは手に負えませんでした。そこで、いしかわ里山保全活動リーダー会

(西田弘道会長)に技術指導や活動のサポートを依頼し、協働での森づくりとなりました。草むしりや植栽作業に汗した後は、会員とその家族ら40名、また、リーダー会の会員とお茶を飲みながら交流の時をすごしました。できたばかりの「絆の森」に、会員の作った四季の歌・こころの電話バージョン「…秋を愛する人は 心深き人 ヤマモミジ色づきのような 僕の恋人…」の歌声が響きました。リーダー会の会員による草笛の披露もあり、耳をすませてその自然の音色に聞き入りました。

私たちの思い

現在、5年の年月を経て、木々も少しずつ育ってきました。秋には、小さいながらも宝石箱の中身のような美しい彩の紅葉を見せてくれました。絆の森と名付けた「金沢こころの電話」の活動ですが、いつか県民のみなさまの目を楽しませるような空間になり、県民との心をつなぐツールになってほしいと願って保全活動を続けていきます。



公益社団法人 金沢こころの電話事務局

〒920-8557 金沢市本多町3丁目1番10号
Eメール: kkd@beach.ocn.ne.jp

TEL: 076-222-7531
FAX: 076-222-5352

株式会社 北國銀行 No.10

活動テーマ 美しい健全な森林を次世代に引き継いでいくために



北國銀行では、環境対策をCSR推進の柱の一つとしています。

その一環として、石川県が実施する「企業の森づくり推進事業」に参画、平成22年7月に「県有林における企業の森づくり活動実施に関する協定書」を県と締結し、津幡町の石川県森林公園において「北國の森」づくりに取り組んでいます。

「北國の森」づくり

第1回の活動は、平成22年10月に頭取をはじめ役員とその家族70名がボランティア参加し行われました。石川県、石川県森林公園事務所、(社)石川の森づくり推進協会の方々にご指導いただき、記念植樹の後、全員で力を合わせ、紅葉の楽しめるヤマモミジやヤマボウシを植樹しました。また、湿地にはガクアジサイやミズバショウを植えました。活動区域内には歩道がありますので、散策される皆さまに季節によって目でも楽しんでいただければと思います。

平成26年、7月には58名が参加し、暑さとやぶ蚊と格闘しながら、前年に植樹した苗木の成長を助けるための下草刈りを行い、10月には54名が、さらに植樹の範囲を広げました。加えて、「北國の森」内の遊歩道整備や看板設置も新たに行い、活動内容を拡大しています。

これらの活動は役職員のボランティアにより実施していますが「自分たちで植えた苗木が元気に育って欲しい」と毎回参加してくれる者もいます。

森林整備は息の長い活動になります。北國銀行では、今後も、美しく健全な森林を次世代に引き継いでいくため、積極的に環境保全活動に取り組んでまいります。



株式会社 北國銀行

〒920-8670
石川県金沢市広岡2丁目12番6号

担当部署: 総合企画部広報CSR課
TEL: 076-223-9705
FAX: 076-263-0211
ホームページ: <http://www.hokkokubank.co.jp>

活動テーマ 朱鷺が舞う能登半島をめざして



わが社は、社会貢献の一環として、全役職員が一人となり里山里海づくり活動を推進し、自然環境と生物多様性を保全し、次世代に継承するとともに、地域の振興に寄与することを宣言しています。

里山の生きものを守り育てる活動

荒廃した耕作放棄水田をピオトープとして整備し、水生生物の保全を図っています。能登半島里山里海自然学校の指導を受け、地元のNPOとも協働して活動しています。バックホウによる掘り込み作業など建設会社のノウハウを活かして貢献するとともに、環境に配慮し、重機の燃料はバイオ燃料を使用しています。

里山の森づくり活動

マツタケ山の再生をめざし、自然学校やNPOと協働し、雑木の伐採や下草刈りを行っています。

生物多様性についての研修会

休耕田のピオトープ化による希少動植物の保全に関する研修会を開催。本来の里山里海のあり方や、過疎の進行や外来種の問題など、里山里海をめぐるさまざまなことに理解を深めています。

里海づくり活動

本社がある珠州市三崎町宇治の海岸に漂着したゴミを除去し、きれいな浜辺を守る活動も実施。この海岸は学校指定の海水浴場であり、地元の方々が大変喜ばれています。

道路美化清掃活動

珠州市内の主要道路の清掃活動や、地元集落の方と協働での草刈り作業も行っています。

世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」は海と山の豊かな自然にめぐまれています。急速な過疎化や高齢化の進行、農林業の不振等で里山などが管理できず荒れつつあります。これらの現状と問題を打開し、かつて能登半島に朱鷺が生存していた環境をめざして、これからも会社一丸となり、里山里海の保全に全力で取り組んでいきたいと思えます。



能登建設 株式会社

〒927-1454

石川県珠州市三崎町宇治3129番地1

T E L : 0768-82-8800

F A X : 0768-82-1297

活動テーマ 「森づくり活動」 ~竹の伐採や苗木づくりと植栽、散策路の整備などにより「金沢テクノの森」として、雑木林を憩いの場に整備する~



私たち5社は、金沢の北部にある緑に囲まれた自然豊かな金沢テクノパークで企業活動を行なっています。

四季折々に楽しませてくれる森林や、そこで生息する野生動物と共存した企業活動を行うため、金沢テクノパーク連絡会は環境保全活動の一つとして、2007年から春と秋の年2回、森づくり活動を行っています。

この活動は、金沢市北陽台にあるテクノパーク内運動公園に隣接する森林帯約2ヘクタールを、周辺の住民も含めたみんなが、“憩いの場「金沢テクノの森」”として利用できるように再生しようとするものです。

これまでの活動

地元金沢市の協力のもと、以下の活動を行ってきました。

- 侵入竹の伐採・破砕、コナラやスギの間伐、植樹、笹やクズの刈り取り
- 歩道(散策路)や広場の整備、丸太ベンチづくり
- 森林レクリエーション

毎回、従業員とその家族、周辺住民の方など、80名近くが参加して活動しています。子どもと一緒に参加者も多く、子どもたちに「自然を大切に作る気持ち」を育むとともに、親子のきずなを深める場にもなっています。

生まれかわった「金沢テクノの森」

うっそうとした雑木林だった場所に木漏れ日の差し小道ができ、丸太のベンチが置かれ、また、傾斜がきつかった斜面には階段が整備され、今では、ちょっとした散歩コースになっています。また、散歩コース横の木に、子どもたちと作った鳥の巣箱をとりつけたり、整備した道に「どんぐりのみち」や「おひるね広場」など親しみやすい愛称をつけたりしています。

「金沢テクノの森」として再生し、次代に引き継ぐため、これからも子どもたちや周辺住民の方々と協働し、楽しみながら森づくりに取り組んでいきます。



金沢テクノパーク連絡会

代 表 : 日機装㈱金沢製作所
 T E L : 076-257-4181

〒920-0177 石川県金沢市北陽台3-1

参考ホームページ : <http://www4.city.kanazawa.lg.jp/17062/morizukuri>



かつて、野生のトキは日本全国に分布していました。しかし、乱獲や環境の悪化、農薬などによりエサとなる生きものが減少し、トキも激減。穴水町乙が崎で日本最後の野生のトキ1羽を捕獲し、繁殖のために佐渡トキ保護センターへ移送しましたが、繁殖は成功せず、日本のトキは絶滅してしまいました。

トキのエサは、主に田んぼや小川に生息するドジョウやカエルなどの生きものです。田起こしの際に土の中から出てくる昆虫などはトキにとって格好のエサであり、農作業の後からエサをついばむトキの姿がよく

見かけられました。当時はトキなどの野生生物が安全に暮らせる環境だったのでしょ。

1981年、中国でも野生のトキが再発見されました。NPO法人日本中国朱鷺保護協会は2001年に結成し、日本と中国の人々にトキと人間が安全に暮らすことができる環境に理解と協力をいただくため、野生のトキが生息する中国洋島のトキ保護関係者との交流を続けています。

主な取り組み

「日本中国交流トキの絵展示会」

日本と中国の子どもたちが描いたトキの絵を相互の国で展示しています。

「トキの里自然学校」

バードウォッチングや田んぼの生きもの探しなど、トキの生息環境を親子で学ぶプログラムを行っています。

「トキと共生する田んぼづくり」

かつてトキが生息していた羽咋市の耕作放棄地で、トキと共生する里山を目指し、無農薬の田んぼづくりを実施しています。

「いしかわ動物園でトキの解説」

トキの生態やトキと人が共生する里山などについて解説を行っています。ぜひお気軽にお声かけください。

2011年、「能登の里山里海」と「トキと共生する佐渡の里山」が世界農業遺産に認定されました。当協会ではトキと共に生息できる里山里海を復活するための活動を継続していきますので、これからも皆様のご支援ご協力をお願いします。



株式会社スギヨは、平成19年4月より七尾市能登島の西島地区にて農業をしています。キャベツ、タマネギ、ニンジン、ジャガイモのほか、金糸瓜、中島菜、能登かぼちゃなどの能登野菜も栽培しています。

食品加工会社が農業に参入

当社が農業をはじめた目的は、能登の里山農地を再生させ、農業によって地域活性化を図ることにあります。

農業に参入した当初の農地(4.8ha)は、すべて耕作放棄地でした。林地化している場所もあり、農地に再生するためには、雑木の伐採や抜根など大型重機を入れての整備が必要でした。さらに、一度耕作放棄地となった農地は地力が大変落ちています。そのため、野菜を栽培しても収量が上がりません。回復させるのに最低3年はかかります。収穫よりも土づくりが優先となります。

再生した大地、広がる思い

現在、当社の農地は約26haになりました。その半分は耕作放棄地を再生させたものです。地元の方に、「里山がよみがえった」「地域の畑が荒廃せずすむ」と大変喜んで頂いています。また、農地を拡大することによる雇用の促進、そして子どもたちを対象とした体験農場、農育活動も積極的に行っています。

今後、能登島だけでなく、能登全体を視野に入れた里山農地の再生に取り組んでいきたいと考えています。



株式会社スギヨファーム

〒926-0041 石川県七尾市府中町員外27-1 Eメール:kawakami@sugiyoko.jp
TEL:0767-53-0180 FAX:0767-52-2572 ホームページ:http://www.sugiyoko.jp/advance/index.html

NPO法人 日本中国朱鷺保護協会

〒925-0028 石川県羽咋市次場町ツ10番地 Eメール:info@tokihogo.gr.jp
TEL:0767-24-1351 FAX:0767-22-1564 ホームページ:http://www.tokihogo.gr.jp/

津幡町立英田小学校

No.103

活動テーマ MISIAの森プロジェクトを通して



英田小学校は、平成23年度から「MISIAの森プロジェクト」の一翼を担うことになりました。いろいろな生きものが共生する生物多様性のことや里山里海の自然環境を考えていくため、県森林公園にある森の一区画で、アーティストのMISIAさんとともに、本校の子どもたちが調査探究活動をしていくものです。と言っても、子どもたちと一体どんな活動をしていけばいいのか、一年生から六年生の児童にそれぞれどんな力をつけていけばいいのか、ゴールがはっきりと見え、最初の一年目は調査活動を中心に行うことになりました。

生きものとの出会い！

まずは、一年生から六年生まで全校児童がMISIAの森に入ることがスタートラインと考えました。春頃はMISIAの森のモニュメントが一つあるだけのあまり手の加わっていないこの森で、五、六年生が生きもの調査をしました。県森林公園は学校に隣接し、いつでも気軽に足を運べる場所であるにもかかわらず、子どもたちはこの自然いっぱいの森にいる生きものとの出会いに目を輝かせながら楽しんでいました。植物でも昆虫やリスなどの動物でも、いろいろな生きものが自分たちとともに生きていることを実感していました。

子どもたちの成長

また、MISIAの森で調べたことを発表する場も数多くありました。国際森林年(2011年)の集いや、漁民の森づくりプロジェクトなどがそうです。普段大勢の人たちを前に発表する経験の少なかった本校の子どもたちにとって、とてもいい機会になりました。

平成27年度は、「MISIAの森プロジェクト」の5年目です。これまで行ってきた活動を生かし、全校の子どもたちがこのプロジェクトの主人公になるように、地域や保護者の方とも連携しながら、より深まりのある「MISIAの森プロジェクト」を展開していきたいと思っています。



津幡町立英田小学校

〒929-0326
石川県河北郡津幡町字能瀬井36

TEL : 076-288-8533
FAX : 076-288-8534
Eメール : agata-es@m2.spacelan.ne.jp
ホームページ : <http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~agatae/NC2/htdocs/>

いしかわ版里山づくりISO 認証団体(H26.12.24現在)

認証番号	組織名称	所在市町	認証番号	組織名称	所在市町
1	のと共栄信用金庫	七尾市	56	TOTO株式会社北陸支社	金沢市
2	加賀白山麓観光ネットワーク協同組合	小松市	57	金沢市立森本小学校	金沢市
3	能美の里山ファン倶楽部	能美市	58	NORAバイオエコ能登	能登町
4	いしかわ里山保全活動リーダー会	金沢市	59	美川自然クラブ	白山市
5	公益社団法人 金沢こころの電話	金沢市	60	特定非営利活動法人 e-cycle	金沢市
6	環八会	金沢市	61	輪島市立三井小学校	輪島市
7	石川県立翠星高等学校	白山市	63	金沢テックパーク連絡会	金沢市
8	金沢菊水ライオンズクラブ	金沢市	64	有限会社 花座	金沢市
9	イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー北陸事業部	白山市	65	特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所	津幡町
10	株式会社 北國銀行	金沢市	66	池田商店	金沢市
11	生活協同組合 コープいしかわ	白山市	67	株式会社 フタギ鉄工	白山市
12	特定非営利活動法人 39アース	金沢市	68	株式会社 浅野太鼓楽器店	白山市
13	語り部宗家富田流	能美市	69	株式会社 国土開発センター	金沢市
14	石川フォレストサポーター会	金沢市	70	みづほ工業 株式会社	金沢市
15	木滑里山保全プロジェクト	白山市	71	株式会社 田中建設	能美市
16	能登建設 株式会社	珠洲市	72	株式会社 玉家建設	金沢市
17	株式会社 中田エンジン	白山市	73	特定非営利活動法人 日本中国朱鷺保護協会	羽咋市
18	ウッドランドファーム	羽咋市	74	山代温泉女性懇話会	加賀市
19	金沢ふるさと愛山会	野々市市	75	北陸信用金庫	金沢市
20	コマツ栗津工場	小松市	76	株式会社 スギヨファーム	七尾市
21	滝ヶ原町鞍掛山を愛する会	小松市	77	興能信用金庫	能登町
22	特定非営利活動法人 くくのち	金沢市	78	社団法人石川県猟友会能美小松支部	小松市
23	株式会社 北陸環境サービス	金沢市	79	山崎農園	七尾市
24	東し株式会社石川工場	能美市	80	農事組合法人佐野ファーム	七尾市
25	リコージャパン(株)中部営業本部石川支社	金沢市	81	能登町商工会	能登町
26	金沢市立朝日小学校	金沢市	82	新崎・志く浦地区里海里山推進協議会	穴水町
27	加賀市立三谷小学校	加賀市	83	加賀東芝エレクトロニクス株式会社	能美市
28	公益社団法人 石川の森づくり推進協会	金沢市	84	株式会社橋本礎文堂	金沢市
29	白山麓ふなもり自然塾	白山市	85	河北郡林業研究会	津幡町
30	特定非営利活動法人 いしかわ農林水産サポートネット	金沢市	86	「風土記の社」づくりの会	加賀市
31	株式会社 日本海コンサルタント	金沢市	87	特定非営利活動法人 いしかわ自然体験支援隊	金沢市
32	山中温泉ひがしたに地区保存会	加賀市	88	特定非営利活動法人 世界の砂漠を緑で包む会	金沢市
33	中部地下開発 株式会社	金沢市	89	石川県退職者連合	金沢市
34	株式会社 ホクコク地水	金沢市	90	オダクホームグループ“安心の森づくり”クラブ	富山県射水
35	金蔵集落	輪島市	91	金沢星稷大学	金沢市
36	加賀林業研究グループ	加賀市	92	キリンビールマーケティング株式会社石川支社	金沢市
37	夕日寺自然体験実行委員会	金沢市	93	上中ふるさとづくり地域協議会	穴水町
39	小倉建設 株式会社	羽咋市	95	ジェイ・バス株式会社	小松市
40	特定非営利活動法人 森林環境保全・里山物語	金沢市	96	鴨池観察館友の会	加賀市
41	輪島市林業研究グループ	輪島市	98	株式会社NTN宝達志水製作所	宝達志水町
42	石川県立七尾東雲高等学校	七尾市	99	能登薪人の会	七尾市
43	春蘭の里実行委員会	能登町	100	アサヒビール株式会社北陸統括本部	金沢市
44	白山いぬわし自然楽校	野々市市	101	石川県立加賀聖城高等学校	加賀市
46	一般財団法人 きんしん環境財団	金沢市	103	津幡町立英田小学校	津幡町
47	特定非営利活動法人 能登半島おらっちゃん里山里海	珠洲市	104	株式会社ジャパンディスプレイ	能美市
48	株式会社 アイ・シー・ピー	野々市市	105	株式会社神子の里	羽咋市
49	鶴来信用金庫	白山市	106	三谷地区活性化推進協議会里山づくり推進委員会	加賀市
50	小松市立那谷小学校	小松市	107	金沢赤とんぼ童謡唱歌愛唱会	金沢市
51	白山市立白嶺小学校	白山市	108	能登島自然の里ながさき	七尾市
52	株式会社 上野組	輪島市	109	からくり楽会	金沢市
53	森林公園地域振興会・金沢森林組合エコグループ	津幡町	110	石川県立津幡高等学校	津幡町
54	社会福祉法人 愛里集福社	金沢市	111	株式会社御蔵川	七尾市
55	能登にトキとコウノトリを呼ぶ会	珠洲市	112	株式会社 環境日本海サービス公社	七尾市